

V 県学力調査「ゆうチャレンジ」を活用した改善の方策

1 結果分析による改善の方策

(1) 小問レベルの結果分析を補充指導や授業改善に生かしましょう

H20中学2年国語における取組例

定着率 45.6%

〔課題〕

文節の係り受け(修飾・被修飾の関係)や働きなど、文の成分に
関して正しく理解していない。

(3)

次の文の~~~~線のAとBの文節は、どのような関係になって
いますか。次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

九州新幹線の駅が、完成したと聞いたので、
友だちと見に行った。

A~~~~ B~~~~

ア 主語・述語の関係

ウ 補助の関係

イ 修飾・被修飾の関係

エ 並立の関係

H19中学1年国語問題

定着率 42.4%

〔課題〕

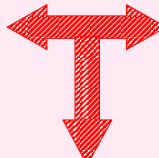
文節の係り受け(主語・述語の関係)や働きなど、文の成分に
関して正しく理解していない。

(2)

次の文は、「何が」↓「どうする」という組み立てに、修飾する言
葉がついた形になっています。次のア〜キから「何が」「どうする」
にあたる部分をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

明日は、私の兄も、新幹線で、新八代駅から
鹿児島へ行きます。

ア~~~~ イ~~~~ ウ~~~~ エ~~~~ オ~~~~
カ~~~~ キ~~~~



昨年度の問題との比較・分析

補充指導

- 文の成分についての知識・技能の定着を図る指導
 - ※ 主語―述語等、文節の意味や働きを含めて、文の成分について確認する。
 - ※ 文の組み立てについて、文節の関係を練習問題等で確認する。
- 確認問題の作成と実施
 - ※ 現在、学習している教材を例文に、文の成分に関する問題を作成し、文の成分の意味を理解させる。

授業改善

- 各領域の授業における文法事項の指導の充実
 - ※ 「書くこと」の領域の授業において、「文の成分の順序や照応」等を視点
に「推敲」や「交流」の活動を展開したり、「読むこと」の領域の授業にお
いて、述語に対応する主語等を意識させ、登場人物の心情の読み取りにつな
げる指導等を構想する。

(2) 領域や単元レベルの結果分析を指導計画等の改善に生かしましょう

H20中学2年数学における取組例

領域別定着率		
	無答	◎+○
数と式	18.0%	48.3%
図形	30.4%	19.4%
数量関係	15.1%	34.1%

学年集計表示(成績処理システム)から

「図形(中1)」の領域に課題がある。
空間図形の体積の求め方や回転体の理解が不十分な生徒が多い。

小問ごとの定着率や誤答傾向からつまずきの把握

単元指導計画の改善

観察、操作や実験などの活動の機会を十分に設けて、平面図形の運動によって立体が構成されるという見方を理解させる。

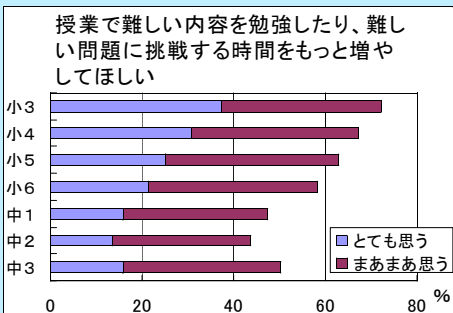
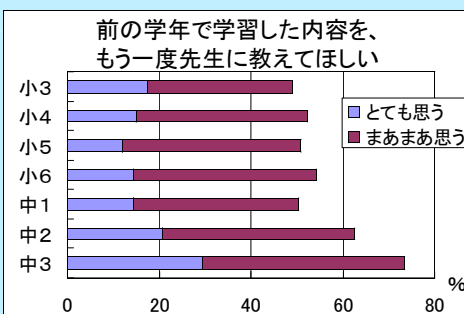
見取図だけでなく、展開図や運動により空間図形を構成する平面図形から立体の体積の求め方を考える機会を設ける。

再び学習する機会を設ける

中学2年の3学期に、具体物を用いて実感を伴った理解図ったり、空間図形の体積を求めることができるよう、再び学習する機会を数時間設けて指導する。

(3) 質問紙調査結果を児童・生徒理解や指導の改善に生かしましょう

H20における取組例



学習内容に関する回答状況から

「前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えて欲しい」と思っている児童生徒の割合は約半数で、中学2・3年生になると、その割合が増える。

「授業で難しい内容を勉強したり、難しい問題に挑戦する時間をもっと増やしてほしい」と思っている児童生徒は、ほぼ半数以上で、小学校中学年で特に高い。

原因の分析

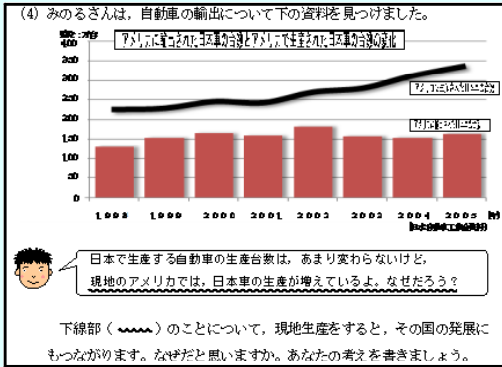
- 既習事項の定着に不安をもっている児童生徒が多く、特に中学2・3年生の学習に支障を感じている生徒が多い。
- 児童生徒の知的好奇心や学習意欲に応える教材開発、問題提示や発展的な思考に導く発問の工夫が不十分である。

改善の方策

前学年の内容を学び直す機会を計画的に設ける。児童生徒一人一人の学習の進度に応じた発展的な学習課題や思考を深める発問を工夫する。

(4) 指導の改善点を全校で共有し、実践しましょう

H20小学5年社会における取組例



課題の分析

様々な資料（図やグラフ、文章等）から、必要な情報を整理、分析し、自分の考えをまとめたり表現することに課題がある。



指導の改善点を明らかにする

図やグラフ、表、文章から必要な情報を整理・分析し自分の考えと比べながら読み取る活動を重視する。

4 (4)

定着率 53.7%

- ・社会科において、様々な資料の内容を読み取るばかりでなく、読み取った情報を整理・分析してその傾向をつかみ、既習内容と関連させたり比較したりして自分の意見をまとめたり発表し合う活動を展開する。

- ・国語、算数（数学）、理科、家庭、保健体育などの他教科等において、各教科のねらいに即して、図や表、グラフ、写真など多様な資料を活用し、自分の考えをまとめ、書く活動を設ける。

小学校の組織的な取組例

各担任

定着率が低い問題の洗い出し
つまずきの把握 → 補充指導



学年部会

児童の解答用紙から誤答傾向の分析 問題の分析
学年の課題の把握



校内研修

学校全体としての成果と課題の把握
改善方策の検討・共通理解



全教員による実践

言語活動の充実 授業展開の工夫
指導形態の工夫 自作評価問題の作成



校内研修

研究授業による実践の検証等



2 問題分析による改善の方策

(1) 問題が求めている力や問い方を参考に、発問を工夫しましょう

H20中学3年数学における取組例

④ 「連続する2つの奇数をそれぞれ2乗した数の差」はどんな数になるかを考えてみましょう。

3, 5のとき, $5^2 - 3^2$ $= 25 - 9$ $= 16$	5, 7のとき, $7^2 - 5^2$ $= 49 - 25$ $= 24$	7, 9のとき, $9^2 - 7^2$ $= 81 - 49$ $= 32$
---	--	--



いちろうさん

(1) いちろうさんは、これらの場合をみて、「偶数になる」と考えました。「偶数になる」こと以外に、どんな数になると言えそうですか。あなたの考えを書きなさい。

(2) あなたが(1)で考えたことが、いつでも成り立つことを、文字式を使って次のように説明してみましょう。

(説明)

連続する2つの奇数は、整数 n を用いると、
はじめの奇数は $2n + 1$ 、次の奇数は と表される。
したがって、それぞれの奇数を2乗した数の差は、

イ

上の説明の にはあてはまる式を、 には説明の続きを書きなさい。

問題を分析する

(1)の問題

数のきまりを自分で予想する機会を設け、いつも成り立つことを確認する活動への意欲を高めている。

「偶数になる」という例をあげ、きまりの見つけ方のヒントを自然に示し、きまりを見つける活動へ誘っている。

(2)の問題

「次の奇数」を文字を用いてどう表すかを問い、はじめの奇数を $2n + 1$ で表した意味を考え、理解する機会を設けている。

説明の続きを完成させる問題で、他の人が書いた説明の方針を読み取って説明を完成させる力を求めている。

発問の工夫に生かす

- 問題提示の中で性質の例や見つけ方を示しながら、図形や数量の性質や規則性を自ら見つけるような発問を行い、図形についての直感的な見方や考え方、数量への感覚を豊かにする。
- 友だちの書いた文字式を読み取るような発問を行い、文字を用いた式の利用に戸惑っている生徒が、見通しをもって学習課題の解決に取り組めるようにする。
- 友だちと見つけた性質や規則性を確認しながら、条件を変えたりして、発展的な見方ができるような発問を行う。



(2) 問題を参考に、思考力や表現力等をはぐくむ教材を開発しましょう

ゆうチャレンジ問題の開発例

<日常生活の素朴な疑問から>

③ なつこさんのおかあさんが、最近買ってくる炭酸飲料水は、カロリーゼロの表示があるものばかりです。なつこさんは、カロリーゼロの表示のある炭酸飲料水と表示のない炭酸飲料水では、何がちがっているのかを調べるために、次のような計画を立てて実験をしました。



【おかあさんが買ってきた炭酸飲料水】

【小学校6年生】

<日常生活や実験の失敗体験から>

(2) 次に、とう明の筒と式目さんとおしぼりを使って図2・3のような実験器具を作ったあるコーナーに行きました。



図2

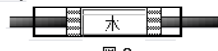


図3

二人は、図2の空気の入った実験器具を使って、左右からおしぼりをおいてみたら、あまり手ごたえを感じないで、図4のようにびんせんがぐっついてしまいました。



図4

なぜこうなったのか考えられる理由を3つ書きましょう。

【小学校4年生】

<学習を楽しみながらじっくり考えるもの>

③ ゆうきさんとまなみさんは、下の12枚の動物のカードを使ってゲームをします。あなたは、2人と一緒に3人でゲームをしてください。



【ゲームのルール】

- ① 問題を3人交互に出し合う。問題は1回だけ出せる。
- ② 問題を出された人は、問題にあった動物のカードを1枚選ぶ。
- ③ 問題を出した人はカードを取れない。
- ④ 一度取ったカードはもとに戻さない。
- ⑤ 取ったカードの点数（カードの番号）の合計が多い方が勝ち。

【中学校2年生】

「ゆうチャレンジ」を参考に、児童生徒の学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ教材を開発しましょう。

【教材開発の視点例（理科）】

- 自然現象や実生活、他教科等との関連があるもの
- 日常生活の疑問の解決につながるもの
- 多様な見方や解き方などが生まれるもの
- 授業や実生活での失敗体験などをもとにしたもの
- 児童生徒の予想がはずれたり、意外性・不思議さがあるもの
- 児童生徒が学習を楽しみながらじっくり考えるもの

(3) 問題構成を参考に、授業展開を工夫しましょう。

H20中学校2年英語における取組例

◆ 4技能を総合的に育成する学習活動として、メモにある情報を基にスキットを作り、発表するという授業展開の工夫

10 クミは、ジョンを次のメモにある内容でスケートに誘うことにしました。あとの問いに答えなさい。

メモ	
ア 期日	来週の日曜日
イ 待ち合わせ時間	午前9時
ウ 待ち合わせ場所	バスセンター (bus center)
エ 交通手段	バス
オ その他	弁当は自分(クミ)が作ってくるので、必要ない。

(1) クミは、ジョンがスケートに行くかどうかの確認をします。次の英文に続いて、下線部に適当な英語1文を書きなさい。



Hi, John. I will go to Higo Skate Center with my brother next Sunday.

(2) ジョンとスケートに行くことになりました。そこで、クミはメモのイ～エの内容を次のように英語で伝えました。(㊶), (㊷)に適当な英語を書きなさい。ただし、1語とは限りません。

Let's meet at the bus center (㊶) in the morning.
We can go to Higo Skate Center (㊷) bus.



(3) メモのオの内容についてジョンに伝えます。あなたなら、どのように伝えますか。英語で書きなさい。英文の数についての制限はありません。

(4) メモのオの内容をジョンに伝えたあと、そのことについてクミはジョンに質問をしました。あなたなら、ジョンにどんなことをたずねますか。英語1文で書きなさい。

思考力をはぐくみながら、作成の手だてを示す。

能動型学習

メモと場面設定を与え、その状況を理解させ、「相手を誘う」表現についてペアで考えさせて発表させる。

徹底指導

発表された表現について、繰り返し口頭練習するなどして確認する。

徹底指導

メモにある情報の英文を与え、どの情報に当たるかを理解させ、()内に適当な英語を書き入れさせる。この活動により、基礎的・基本的事項を確認するとともに、メモの情報を整理して英語で表現するノウハウを示す。

能動型学習

次に、自力(ペア)で他の情報を伝える英文を作らせる。作った英文の発表により共有化を図り、様々な表現ができることを実感させる。

能動型学習

次に、自分で作った英文につながるのがある英文を加えさせ、内容を膨らませる。この活動により、会話を継続・発展させる力を育成する。

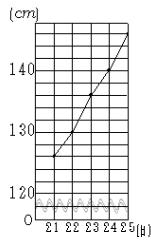
能動型学習

部分的に作成した英文をつなげ、スキットとして作り直し、グループ内での発表活動を行う。

(4) 問題を参考に、思考力や表現力等を高める学習活動を工夫しましょう

H20小学4年算数における取組例

<グラフ①>



ツルレイシのくきの長さの変わり方を表したグラフ①を見て、グラフの特徴や傾向を読み取り、分かったことを発表する活動



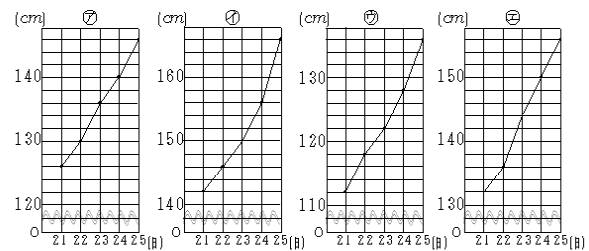
学習活動の工夫

グラフの特徴や傾向を読み取るだけでなく、視覚的にとらえた数量の増減の様子と言葉による変化の特徴の表現との関係を考える活動を通して、具体的な場面において、伴って変わる二つの数量の関係を明らかにする能力を伸ばす。



ただしさん

21日から25日までの間に、くきの長さは24cmのびたよ。
24日から25日の間が一番のびたんだよ。
2日間続けて同じ長さだけのびたこともあるよ。



複数のグラフを比較して、その特徴や傾向を読み取り、相手に分かりやすく説明する活動

具体的な場面における数量の変化の特徴を言葉で表現したものに該当するグラフを選び、選んだ理由を説明する活動

(5) 思考力・判断力・表現力等の評価問題を開発・活用しましょう

単元(題材)の学習を通して、基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等についても、どれだけはぐくまれているかを把握することが重要です。

そのために、単元(題材)ごとに、思考力・判断力・表現力等を評価できる問題を開発・活用し、指導と評価の一体化を図ることが大切です。

H20国語科における設問(抜粋)例

(文章の内容)を参考にしながら、あなたが実際に体験したことがらを取り上げ、体験を通して学んだことを書きなさい。

「登場人物A」に対して、手紙を書きます。
「登場人物B」になったつもりで手紙を書きましょう。

(登場人物に対して)あなただったら、どんな言葉をかけますか。自分の思いや体験を交えて書きなさい。

筆者のようにいつも心に留めているものがありますか、心に留めている理由を書きなさい。

(文章に書かれている内容について)あなたは、どんなことをしていますか。自分の生活を振り返って書きなさい。

※ このような設問の形式を参考に、授業の発問や活動を構想し、それに応じた評価問題を開発しましょう。

